

2025年万博誘致、フランスが立候補辞退の可能性を示唆

21日（日）、現地の複数のメディアは、フランスは2025年万国博覧会（以下、万博）誘致の立候補を辞退する可能性があるとして報道しました。

報道によると、エドゥアール・フィリップ（Edouard Philippe）首相が万博誘致を進める国の組織「Expofrance 2025」のパスカル・ラミー（Pascal Lamy）会長に向けて送った公式の書簡で、「2025年の万博誘致の立候補を辞退することに決めた」と述べた、ということです。

フィリップ首相はこの中で、万博計画の構造的な弱点を指摘し、財政リスクや追加の支出、民間企業の投資が不足していることなどをあげ、将来における財政再建へのリスクは避けなければならない、と述べたとされています。

フランスの万博計画では、パリから南西約19キロの郊外にある大規模な農業地帯のサクレー（Saclay）を候補地にしていて、3500万人～4000万人、最大で6500万の来場者を見込んでいます。

2015年にイタリアのミラノで開催された万博では、目標としていた2000万人の来場者を達成したにも関わらず、財政収入は4億5000万ユーロ（およそ600億円、1ユーロ：135円計算）～13億ユーロ（1760億円）にとどまっているため、フィリップ首相は財政的に大きなリスクを抱えている、と述べているそうです。

実際にフランスが立候補を辞退した場合、大阪（日本）、エカテリンブルク（ロシア）、バクー（アゼルバイジャン）の3都市が候補地として残り、今年の11月15日に開催地が発表されます。万博は2025年5月1日～10月31日で開催されます。

執筆：Daisuke

オンラインフランス語学校
ENSEMBLE EN FRANÇAIS
アンサンブルアンフランセ

オンラインフランス語学校アンサンブルアンフランセは、プロの講師によるマンツーマンのスカイプレッスンが1回1500円～受講できます。いつでもどこでも手軽に受講できる利便性と生徒一人一人にカスタマイズされた質の高いレッスンが好評です。



